

ホームと家族を結ぶ

# おとぎずり 163号

社会福祉法人 任運社 特別養護老人ホーム 任運荘

〒879-6601 大分県豊後大野市緒方町馬場 796 番地 1

事務室：0974(42)2338 寮母室：0974(42)3322

任運社総合相談支援センター 0974(42)4211

任運荘ホームヘルパーステーション 0974(42)3351

※ 任運社内では介護職を『寮母』と呼びます

F A X : 0974(42)4187

E-mail : ninunsou@gmail.com 編集・発行

<http://ninun.or.jp>

任運荘広報委員会

## 祝百歳 五嶋ナルコさん

6月19日(土)、緒方町小宛の五嶋ナルコさんが百歳を迎えました。この日の15時より、ご家族と川野豊後大野市長が来荘し、任運社アネックスにて百歳のお祝いを行いました。

最初に、川野豊後大野市長より五嶋ナルコさんへ慶祝状と記念品が贈られました。そして「五嶋さんご本人とご家族の皆様、心より百歳のお誕生日をお祝い申し上げます。百歳を迎えられる事は本当に素晴らしいことだと思います。楽しい事も多かったと思いますが、戦後の苦しい時期をご家族の幸せのため、そして郷土発展のために必死に頑張つてこられた五嶋ナルコさんに、私どもは敬老の心でお誕生日をご祝福申し上げます。今は任運荘さんに入所中でございますが、優しい職員の皆さんに介護していただいて、更なる長生きをしていただきたいと思っております」と挨拶されました。次に、任運荘の吉野施設長から、五嶋ナルコさんの名前で作ったあいうえお作文の慶祝状と記念品が贈られました。そして、五嶋ナルコさんとご家族、川野豊後大野市長の皆さんで記念撮影を行いました。

### 【五嶋ナルコさん プロフィール】

大正10年6月19日、緒方町小宛の五嶋家の二女(4人兄妹の末っ子)として誕生。19歳で結婚され、夫婦で農業をして生計を立て、4人の子どもを育てました。また、30年に亘り新聞配達を続けられました。子ども達が大きくなってからは、大好きな旅行を楽しみました。



二女(孝子さん)とのツーショット写真



五嶋ナルコさんをご家族と川野豊後大野市長が囲み記念撮影

# 任運社 五月祭

令和2年5月9日(日)、第46回任運社創設記念五月祭が開催されました。今年も、新型コロナウイルス感染症防止の為に、各施設で行うこととなり、任運荘はホールでの開催となりました。

初めに、任運社理事長 廣本賢郎より「任運荘が開設して満46年となります。近年に経験のない病が世に流行っている中、今日の創立記念祭を迎えた事は、日々利用者のお世話をする寮母や看護師の方々、そして調理場で美味しい食事を作ってくれている厨房職員の方々に感謝を申し上げます。さて、初代会長の吉田嗣義が発起人となり他6名の方々と、この地に特別養護老人ホーム任運荘を立ち上げました。その頃、ここは任運荘砂漠と呼ばれていました。山を切り開いて作られたこの台地には、木が1本も生えていませんでしたが、当時の皆さん方がボランティアとして木を植えてくれました。また、古い浴衣を解いてオムツを作り寄贈してくれた方もこの中にあると思います。こうして皆さんのお顔を拝見すると、皆さんのお連れ合いやご両親の方々が任運社を支えてくれた事を思い出します。この46年間は、地域の方々の支えがあつた任運社だったと思います。もう一つ忘れてならないのは、一番の支えであつた職員の方々です。今日はここに、30年を筆頭として20年、10年に亘つて、この任運社を支えてくれた方々の表彰も行われます。日頃からの感謝を皆さんと一緒にお祝いしたいと思います。任運社は皆さんの笑顔のためにあるという事を忘れずに、一つの目的に向かつて、一丸となつ

て共存してきます。それが、任運社が存続する理由です。この施設は皆さんのためにあるんだという事をいま一度思い起こす記念日とします。また、皆さんがより良い共同生活を目指すため、任運社はこれからも存続するという事をお誓いする日も致します。今日はありがとうございます」と挨拶がありました。

今年、任運社では永年勤続表彰者が、勤続年数30年3名、20年3名、10年5名の11名でした。その内9名の職員は、任運荘にて表彰状と記念品が贈られました。利用者を代表して飛賀アヤ子さんより「表彰された皆さん、おめでとうございませす。私は今年で92歳になります。仕事や子育てと大変な時代をなんとか歩んできました。今も大変な世の中になってますが、こんな時だからこそ一緒に笑い飛ばしていきたいでしょう。皆さん、時には私たちのわがままにも付き合ってください。体を大切にしてください。この度は、誠にありがとうございます。皆さん、ありがとうございます」と、お祝いの言葉をいただきました。表彰者を代表してリネン部門の木元一美職員より「私は施設全体の洗濯物をたたみ、皆様それぞれにお渡しするまでのリネンという仕事をしています。皆様にお会いする機会はありませんが、今、皆様を着られている上着やひざ掛けを見ると、子どもを見ているような感じですよ。入社した当初は、洗濯物をたたむだけの仕事と思っておりましたが、ある日、今は亡き吉田嗣義会長に、『君たちは縁の下の力持ちなんだ。伸ばしてくる一本一本のしわが、床ずれを作らなくてすむんだよ』と、声をかけていただきました。私を指導してくださつた先輩方はもとより、会長のこの教えのおかげで、自分の仕事を大切に、誇りを持って30年働いてこれたと思います。大変感謝しております。これから、皆様に気持ちの良い洗濯物を届けられるようお誓い申し上げます」と謝辞を述べられました。皆さんに盛大な拍手をいただき、式典が終了しました。



30年表彰を受け謝辞を述べる  
リネン職員の木元一美さん



表彰された職員へ温かい祝辞を  
述べる飛賀アヤ子さん



主催者代表として挨拶する  
廣本賢郎理事長

# 五月祭の様子

式典終了後より、アトラクションが行われました。素敵な衣装をまとった職員の踊りに、皆さん見入っていました。また、今年は香港より特別ゲストとしてモーリ天功さん(うー)が、利用者の前でイリュージョンを披露しました。皆さんは驚きと感動で大きな拍手を送っていました。



モーリ天功とは・・・森園美ケアマネでした。  
人体貫通イリュージョンは成功したのでしょうか？

工藤若美寮母による2つの舞。1つ目は勇ましく、2つ目は琉球衣装を  
まとい優雅な踊りを披露してくれました。



イリュージョンのお手伝いをする  
岡部ヒサヨさんと高山ヒサコさん



工藤寮母の踊りをみながら拍子  
をとる芦刈トヨさん



踊りを見入っているお二人。  
河野ハル子さんと志賀フキエさん



自分の色紙を持つ三代智子さん



高橋アイ子さん



伊東晴子さん



利用者全体作品『かさじぞう』



村上昌子さん



工藤久子さん

午後からは『綿菓子』を作りました。「美味しい」「もう一つ」と利用者に大好評でした。また、皆さんで作品見学も行いました。  
担当 五月祭実行委員

# 県内最高齢の記録を持って

## 佐藤 亀代さん逝かれる。享年110歳



4月30日午前4時30分、任運荘にて110歳の生涯を閉じられました佐藤亀代(きよ)さんに心より哀悼の意を捧げます。介護に携わる私たちの希望であり、生きていく大切さ、ご家族との絆の大切さを教えていただきました。ここにお孫さんにあたる佐藤幸生さんの「会葬礼状」をご紹介します。いただきます。

「私たちのスーパーおばあちゃん」

明治43年9月13日豊後大野市清川町宇田枝に3人の子供の末子として出生。子供の頃は本人の弁によると「すそ子じゃから、おてんばで悪がねじやつた。宝生寺の池に飛び込んで遊んだ」という程、活発な子供だったようです。女学校時代はバレーボール部らしき集合写真、ピアノに向かう祖母の写真が残っており、いつきり青春を謳歌したのだと思います。

佐藤家に嫁いだ頃は、義父、病弱な義母、夫と私たちの母の世話で大変であつただろうと想像しますが、それらを含め苦労話を聞いたことがありません。おてんばなどところは家の瓦普請時には屋根に登り職人さんの手伝いをしたり大人になつても変わらなかつたようです。

隠居してからは、頭の老化防止として庭の掃除、草むしりで体を動かす事、空いた時間には思いつくままに諺、地名、言葉を書く事に集中すること。食事は、よく噛んで食べる事等実行し家の者に迷惑をかけまいとの姿がありました。私たちも102歳まで在宅介護を致しましたが、特段の負担はありませんでした。最期まで皆さんに見守られながら、その天寿を全うした、男まさりで負けず嫌いで常に前向きだった私たちの自慢のスーパーおばあちゃんでした。

「亡き夫の好みし峠 墓碑たてり 朝夕語らう ハリド越しに」と  
と隠宅からおばあちゃんが詠った市男おじいちゃんのそばで安らかに眠りください。

孫 佐藤幸生 (一部省略)



今年の任運荘農園「すいか」と「トウモロコシ」

### 小さな畑に大きな期待!

6月6日(日)、梅雨の合間にプランターに苗植えをしました。利用者先生(ー!)が多く参加されました。平井綾子さんは「伸びろー伸びろー」とおまじないをかけていました。岡部ヒサヨさんは「こげん、こんめえ(ちいさい)畑じゃ苗がむげねえ」と言われ、「場所は、小垂れうつところは悪いので」とご指摘があり、カイヅカイブキの木の下から、さささーっとホールの前に移動し合格をもらいました。皆さんで、すくすく大きく育てよーと祈りました。担当 森 園美



紫陽花を眺める後藤イサヲさん



「あらま、トウモロコシ」と橋本恵美子さん



「美味しい」と微笑む清田マサエさん



「大きく育て」と土をかける平井綾子さん

# 私たちも支えています

## 厨房編

介護を語るうえで欠かせない「食事」の事。今回は厨房をご紹介します。

任運荘の調理場は、隣接する障がい者支援施設・騰々舎と共同です。調理員が7名、栄養士が2名の体制で、一食あたり80名から90名の食事を作っています。食事形態は利用者の嚥下状態に合わせて5種類に作り分けており、また病態や好き嫌いに個別対応した食事作りも積極的にを行っています。新型コロナウイルスの影響により、気軽に外出や外部招致ができない最中、利用者にとって食事は、一番の楽しみです。それに携わる私たちは責任ある仕事と自負して日々の業務に励んでいます。

現在はコロナ感染予防の為、利用者の食べている姿を直接お見掛けする機会がなく残念ですが、一人ひとりの顔を思い浮かべながら、丁寧な食事作りを心がけています。本格的な暑い時期になります。が季節感ある献立や旬の食材を使った食事を差し上げます。



上田桃子管理栄養士

上田桃子



山崎いつ子さん

板井めぐみさん

さん

三谷弘子さん

さん

金子真紀さん

堀口千恵さん



一番大切な事は「美味しい」って喜んでくれる食事を作る事



大人気の巻き寿司  
行事食の定番！

最期の食事になるかも知れないって事もある。だから毎日、心込めて作っています。



(右上)など季節感あるメニューで職員が一致団結して頑張っています。担当 森園美



普通食↓細食(2分の1)  
↓細細食(4分の1)  
↓極細食(きざみ)  
↓流動食(ミキサー食)  
腕の力が弱い方は軽い食器で、病態によっては減塩食やカリウム制限食など実施しています。

厨房主任兼栄養士の三浦克美さん(右)と渡辺美千代さん



藤川京子さん(右)  
金子真紀さん(左)



食事形態の5種類

# 誕生者紹介

6月生

後藤 スミエさん (95歳)



話しかけると「ああ、そうなあ」と頷きながらお返事してくれます。そして、笑顔がとても素敵です。

担当寮母 高橋 みのり

山村 節子さん (87歳)



職員に、ご家族や家の話を聞かせてくれます。そして、今の楽しみはお菓子を食べる事です。「おいしい」と言いながら笑顔で食べられます。

担当寮母 酒井 結奈

五嶋 ナルコさん (100歳)



100歳を迎えられ、本当におめでとうございます。お祝いの会でお召しになられていた、ピンク色の帽子やシヨールは、良くお似合いですよ。

担当寮母 高倉 智恵

7月生

工藤 幸子さん (87歳)



声をかけるとニコッと、優しい笑顔で答えてくれます。その笑顔に私達は癒されます。

担当寮母 馬場 由希子

8月生

堀 右橘さん (92歳)



いつもニコニコ、笑顔の絶えない堀さんです。食事もおいしいと言って召し上がられますが、やはり奥様の料理が一番と言われます。

担当寮母 高橋 みのり

平井 綾子さん (90歳)



時々、「ポチの歌」という歌をうたってくれます。かわいらしい犬の歌です。また、レクリエーションでの言葉遊びでは、常に面白い事を言ってくれ、笑いを誘ってくれます。

担当寮母 文東 明美

飛賀 アヤ子さん (92歳)



8月が誕生月の飛賀さんは「今度、20歳(はたち)になります」と、真顔で冗談を言われます。みんなを笑わせる、ユーモアたっぷりの方です。

担当寮母 小平 菜穂子

岡部 ヒサヨさん (93歳)



「トイレの神様、水の神様、使わせて頂きます。ありがとうございます」と、いつも感謝の気持ちを忘れません。

担当寮母 羽田野 弘美

後藤 ヨシミさん (96歳)



「年はとりとねえけんど、とる。目も悪なつたけど、がんばらなな」と笑顔でお話しをしてくださいます。

担当寮母 羽田野 弘美

年齢は令和3年8月末現在



## 任運社福祉サービス相談委員会への報告

毎月の第3木曜日に、『任運社福祉サービス相談委員会』が開催されており、おとずれ160号にて第三者委員の紹介を行いました。今回は、令和3年4月～6月に任運荘が報告した、アクシデントとインシデントについてお知らせいたします。

報告件数	
4月	5件
5月	4件
6月	4件
内 訳	
投薬ミス	4件
転倒・転落	3件
排泄ミス	2件
表皮剥離	1件
異食行為	1件
私物破損	1件
酸素接続不具合	1件

投薬ミスについては、3ヶ月で4件起きております。ミスの内容としては、投薬日の間違いや薬の置き間違いを他の職員が気づき防げたなど、利用者が違う薬を服用することはありませんでした。しかし、誤投薬は生死に係わる事なので、十分に注意して薬を服用していただくようにと、委員の方々より指摘を受けております。転倒・転落については、骨折やケガなどの大事に至らなかつたが、低床タイプのベッドへの交換や見守り強化をすることとしました。排泄ミスについては、任運荘の理念であるお世話の八項目に『おむつの随時交換の追求』とあります。利用者には不快な思いをさせないように気をつけていきます。また、職員間のコミュニケーション不足が原因とも委員から指摘を受けました。職員間の声かけ、排泄表のダブルチェックを行い、排泄ミスがないように努めます。今後、おとずれの毎号にて、任運社福祉サービス相談委員会への報告内容を知らせていきます。

## オンライン面会の様子

7月末現在で、4名の利用者がご家族とオンライン面会を行ってあります。コロナ禍における『新しい面会のかたち』となっているオンライン面会。今回は、広報誌への掲載を了承していただきましたご家族の面会の様子を紹介します。



任運荘の別棟に65インチの大型テレビを設置して、静かな環境で利用していただいております。利用者も大画面に目がいきます。



県外在住のご家族です。「母親の顔を毎週見ることができて、とても嬉しいです」と好評をいただいております。

※任運荘館内は Wi-Fi 環境を整えており、寝たきりの方々でも居室のベッド上にて面会可能です。

予約制としておりますので、相談員の森か宮崎までお気軽にお問い合わせください。

## ★広報委員のひびり言

残暑お見舞い申し上げます。面会規制へご協力下さり心より感謝申し上げます。  
 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進む中ではありますが、依然として終息が見えない状況です。皆様が安心して生活されます様に、寄り添ったお世話を職員一同、努力して参ります。ご家族様にもお写真を添え近況を今後もお伝えして参りますが、ご心配な事がありましたらどうぞご連絡下さい。オンライン面会をされる方も増えておりますのでお問い合わせ下さい。  
 時節柄、お体をこ自愛ください。  
 施設長 吉野 明子

夏の甲子園、第103回全国高等学校野球選手権大会が2年ぶりに開催されています。地方大会を勝ち上がった49校の代表校が夢の甲子園でプレーする姿は、本当に眩しいですね。どこが優勝するかは分かりませんが、テレビ画面越しに元気をもらいたいと思います。  
 さて、新型コロナウイルスですが、インド由来のデルタ株が全国的に広がり、今までにない感染者数が連日報告されています。前号で利用者と外出ドライブができればと書きましたが、いつのことになるか全くわからない状況ですね。外出はできなくても、任運荘での利用者のご様子をこの『おとずれ』で皆様にお知らせしますので、次号もお楽しみにしてください。